

2017 年度 事業活動報告

I 食のセーフティネット事業（食料支援）

生活困窮世帯に延べ 3874 件、約 37 トンの食品を宅配便でお送りいたしました。また、「フードバンクこども支援プロジェクト」においても、夏と冬を合わせ約 13 トンの食品を子どものいる生活困窮世帯にお届けしました。さらに、緊急的に食料が必要な方のために、行政などを通して直接手渡しする緊急食料支援では、232 回、約 3 トンの食品を提供しました。連携機関との情報交換や個人宅配による定期的な食料支援は継続して行いました。緊急食料支援についても、全県下で行いました。

1 個人宅配

- （１）連携機関からの申請により食料支援が必要な方へ、１ヶ月に２回の個人宅配を実施しました。年度内で配送した数は合計で 3874 箱、重量は合計で 37,810kg(3.7 トン)となりました。別添資料 1



- （２）個人宅配には、食品以外にも七夕の短冊や、クリスマス、バレンタインカードなど季節に応じて同封し、社会との絆を繋ぐ支援を行いました。お心のこもったカード等は、山梨英和中学校・高等学校のYWCA ひまわり部の生徒の皆様にご作成いただき、生徒の社会貢献活動の場としても機能しました。



YWCA ひまわり部の皆さんが作成した短冊とうさぎの折り紙

いつも食品などを送って頂きありがた
うございます。お送り頂いた食品を利用
(活用)して、色々レシピに作り入れて
頂いています。3月頃まで毎週箱を開くた
びに「ありがとうございます」と感謝の言葉
を書き添えています。私も同じ思いです。
子どもやペットの食料を調べる？とみんなと話
し合っており喜んでいました。有意義に使
わせて頂きます。クリスマスカードも「あわい
いねっ」と喜んでいました。
本当にいつも感謝の気持ちでいっぱい
です。ありがとうございます。

お送りした世帯からも、感謝のお手紙をいただきました。

- (3) 電話や訪問による相談の際にお送りした食品の利用状況を確認し、可能な限り利用者のニーズに合った食品が調整できるように、個人宅配にフィードバックしました。
- (4) ボランティア同士の交流を深めるため、フードバンクこども支援プロジェクト終了後に「ボランティア交流会」を開催し、イベントの反省点や改善点などを話し合いました。
- (5) 地域に埋もれている困窮者への支援を強化するため、連携する機関に対し、口頭や文書、説明会の実施により申請を働きかけました。

2 緊急食料支援

- (1) 個人宅配とは別に、緊急的に食料支援が必要な場合には、自立相談支援窓口や連携団体を通じて直接手渡しする緊急食料支援を、全県下で行いました。年度内に実施した緊急食料支援回数は232回、総重量は2913kg(約3トン)となりました。別添資料2

3 心の交流と個別ファイルによる情報管理

- (1) 手書きの手紙と「ふーちゃん通信」を交互に入れ、利用者との心の交流を図り、有用な情報提供を行いました。別添資料3、4
- (2) 支援経過を個別ファイルに記録・保管、必要な場合は、自立相談窓口と連携しました。

II 子どもへの支援

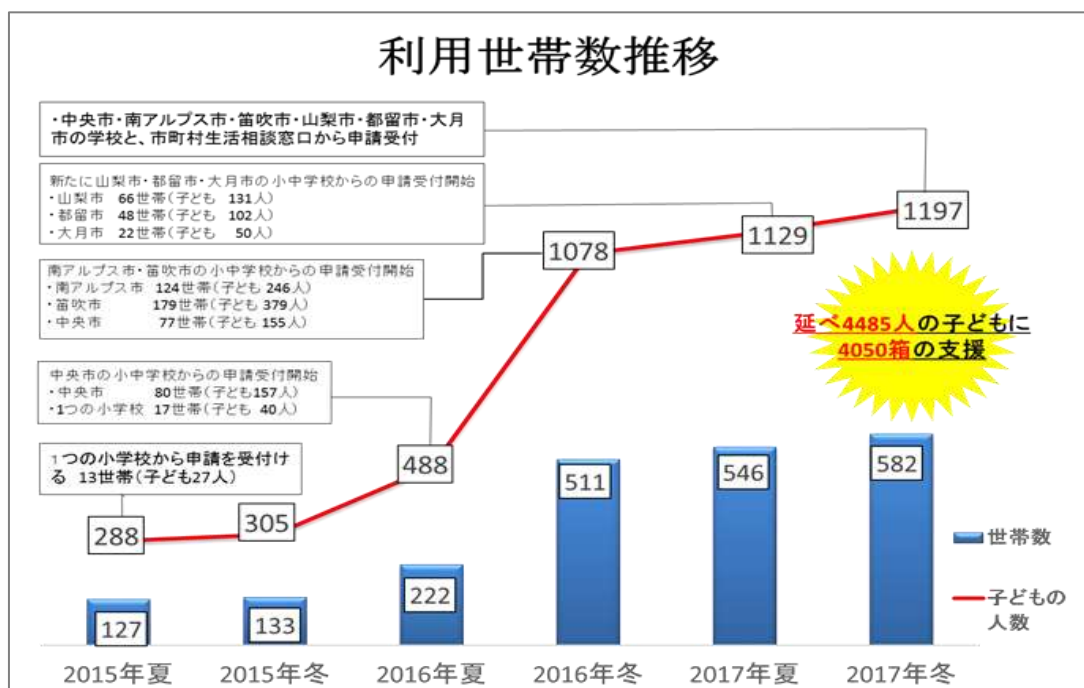
夏休みや冬休みの子どもの欠食を防止し、健やかな成長をサポートするため「フードバンクこども支援プロジェクト」による食品宅配を夏に2回（546世帯に11,466kg）、冬に1回（582世帯に6,111kg）実施しました。別添資料5 また、学習支援やイベントなどを開催し、楽しい経験の機会を創出しました。

夏には、南アルプス市、笛吹市、中央市に加え、大月市、都留市、山梨市と「子どもの貧困対策連携協定」を締結しました。計78校の小中学校の準要保護世帯に食料支援申請書を配布し、合わせて利用者を対象としたアンケート調査を実施しました。乳幼児期からオムツやミルクが足りなかった経験があると答えた世帯が全体の23%（197世帯中45世帯）に上り、記述回答からは「オムツを川で洗って使っていた」「ミルクをお湯でかさました」などの悲痛な声が寄せられました。無料で利用できる食料支援は「家計の負担軽減になる」と多くの世帯が答え、喜びの声が届きました。



1 「フードバンクこども支援プロジェクト」の実施

- (1) 夏・冬合せて、延べ1128世帯(4062人、子ども2326人)に17577kg(17トン)の食料支援を実施しました。また、小林製薬株式会社と連携し、「フードバンクこども支援プロジェクト」の一環として母子家庭支援の「青い鳥子ども支援プロジェクト」を推進しました。利用者からは、「特にお米は近くのスーパーでも高値で売られていて、フードバンクから送られてくるお米はとても貴重なものになっています。」といった声が寄せられました。



フードバンクこども支援プロジェクトにおける食料支援利用世帯数推移

(2) 夏休みの食料支援

行政機関から申請のあった42世帯と、連携する中央市・大月市・都留市・山梨市・笛吹市の学校から504世帯の申請で、合計546世帯に対して、7月末～8月の間、2回の食料支援を実施しました。申請情報をもとに各家庭の人数や年齢等の状況を見ながら、配送する食料の品目、数量などを決定し、通信や手書きの手紙を添えて宅配しました。ふーちゃん通信は子どもたちが一人でも調理できる簡単なレシピを掲載し好評でした。別添資料6

2017年夏 フードバンクこども支援プロジェクト実績	
支援世帯数	546世帯
支援人数	1964人
19才以下の子どもの人数	1129人（全体の57％）
母子世帯数	401世帯（全体の73％）
食品配送回数	1092回
学校からの申請世帯	504世帯
支援食品量	11466kg（11.4トン）
延べボランティア参加者数	538名
協賛企業・団体数	28企業・団体

第1回目の箱詰めフードバンクこども支援プロジェクト「スタートイベント」では、約215名の市民ボランティアが参加しました。議員2名、南アルプス市長、中央市教育長など行政関係者の出席もあり、食品の箱詰め作業を行いました。（場所：県立白根高等学校体育館）



箱詰め作業の様子

第2回目以降の箱詰め作業は、フードバンク山梨飯野倉庫にて箱詰めを行ないました。市民・学生・企業ボランティアが毎回20名程参加頂き、宅配日に集まり作業を実施しました。

（3）冬休みの食料支援

582世帯への食料支援を実施しました。また、普段プレゼントをもらう機会の少ない子どもたちに、クラウドファンディングで集まった寄付で1人1000円分の子ども券を贈る事ができました。

2017年冬 フードバンクこども支援プロジェクト実績	
支援世帯数	582世帯
支援人数	2098人
19才以下の子どもの人数	1197人（全体の57%）
母子世帯数	427世帯（全体の73%）
食品配送回数	582回
学校からの申請世帯	507世帯
支援食品量	6111kg（6.1トン）
延べボランティア参加者数	368名
協賛企業・団体数	36企業・団体

食品発送日（計1回）：12月23日（土）

実施場所：県立甲府東高等学校体育館

箱詰めを行うラッピングセレモニーでは、県内外から226人（うち議員7名）が集まり、食品とクリスマスプレゼント（ノートやプレスレット、子ども商品券）を箱詰めしました。協賛企業やスクールフードドライブ参加機関にはセレモニーにおいて、日頃の感謝を伝えました。また、メディア5社の取材があり、活動への周知につながりました。



県内外から226人のボランティアが参加



箱詰めの様子



完成した発送用食品箱

(4) フードドライブの実施

- ・第 14 回フードドライブ

行政等との連携で 13 の拠点を作り、メディアで積極的に食品寄付を呼びかけたことで取り組みが周知され、12 トン食品が寄せられました。



キックオフイベント



報告式の様子

- ・ヴァンフォーレ甲府とのフードドライブ（柏レイソル戦）

今回2回目となるヴァンフォーレ甲府と共同で実施したフードドライブは、サポーターから235kgの食品が寄せられました。



多くのサポーターの食品寄付



ボランティアの仕分け作業

- ・スクールフードドライブ

山梨県高等学校 PTA 連合会と「子どもの貧困対策連携協定」を締結し、広く県立高校でのフードドライブやボランティア活動を広めました。県立高校や大学延べ 42 校が校内で食品を集め、取り組みを通して貧困問題を考える機会となりました。



甲陵高等学校



甲府西高等学校



塩山高等学校

(5) 学習支援（くれよんひろば）・イベントの実施

経済的な理由で塾に行けなかったり、親が働くことに精一杯で宿題を見てもらうことができない子どもたち一人ひとりに寄り添った学習支援を実施しました。自尊感情を高め、自信をつける心の支援になりました。フードバンクキッチン（バーベキュー大会）は、「夏休みにレジャーにつれていけない」との利用者の声を受けて実施。家族での参加を促し、楽しい夏の思い出作りとなりました。

・夏休み学習支援（くれよんひろば）28 人参加

夏休みの宿題を勉強しました。南アルプス市会場では、午後のお楽しみタイムにおいて「キャンユースピーク甲州弁」の著者：五緒川津平太氏による甲州弁での桃太郎やシンデレラの読み聞かせライブを開催しました。都留会場では、キューピー(株)による食育を兼ねたフードバンクキッチンを行いロールサンド作りに挑戦しました。



・さくらんぼ狩り 14 人参加

新鮮なさくらんぼを沢山収穫し、食べて楽しみました。



・ブルーベリー狩り・テーブルマナー講座 41 人参加

青空のもとブルーベリー摘みを体験しました。お昼は、甲斐市のレストラン「キングスウエル」へ移動し、子どもたちはテーブルマナーを付き添いの保護者はブルーベリージャム作りを体験しました。



・フードバンクキッチン（バーベキュー大会）39 人参加

バーベキューやかき氷を食べたり、スイカ割り、水遊びなどを楽しみ、夏休みの思い出づくりとなりました。この取り組みを実施するにあたり、北ロータリークラブから食材の準備、ボランティアなどの協力がありました。



・花火大会（JIT 株式会社）34 人参加

JIT 株式会社の敷地内で食事を楽しみながら親子で神明の花火を楽しみました。



・ヴァンフォーレ甲府サッカー観戦 99人参加

ヴァンフォーレ甲府よりチケット 100 枚の寄付を受け、希望する世帯に配布しました。親子でサッカー観戦を楽しみました。



去年から フードバンクを利用して頂いておりましたが、毎回、フードバンクからの箱が届くと 家族みんながわくわくし 嬉しくなります。
また、今年は 市の花火 や ヴァンフォーレのチケットも頂き、とても楽しい 夏休みの思い出を 作る事ができました。
皆様の アイデアと 努力と 労力には 本当に 頭が下がります。
ありがとうございます。

・冬休みの学習支援 （くれよんひろば）29 人参加

参加希望者が増加したこと、「遠くまで送迎ができない」という親からの声を受け、中央市と都留市の2会場を用意して学習支援を実施しました冬休みの宿題や習字などを楽しく勉強しました。

田富会場では、昼食は、調理と食育の時間を兼ね、キュービー(株)の協力を得て、マヨネーズ作りに挑戦しました。自分たちで作ったマヨネーズを使った焼きリンゴや食パンでつくるシュウマイなどを食育の話聞きながら食べ、帰りには修了メダル、パンや菓子などのお土産をもらい皆笑顔で帰途につきました。



中央市会場の様子（習字などの宿題にも対応）



食育の様子

都留会場では、大友剛さんによるマジックと音楽と絵本のミニコンサートを開催し、しばらくは、マジックの不思議が頭から離れないと、楽しい時間を過ごすことができました。



都留市会場の様子



大友剛さんのマジックと音楽と絵本のミニコンサートの様子

2 教育機関との連携強化

- (1) 教育現場で把握した生活困窮家庭への食料支援を実現するため、学校からの申請を受け付け、中央市（８校）・南アルプス市（２２校）・笛吹市（１９校）の他に新たに山梨市（１１校）・大月市（７校）・都留市（１１校）と連携を結び、小中学校から新規の申請が２９９世帯ありました。
- (2) 子どもの貧困対策に連携して取り組むことを目的に、山梨市・大月市・都留市と「子どもの貧困対策連携協定」を締結しました。



山梨市・教育委員会

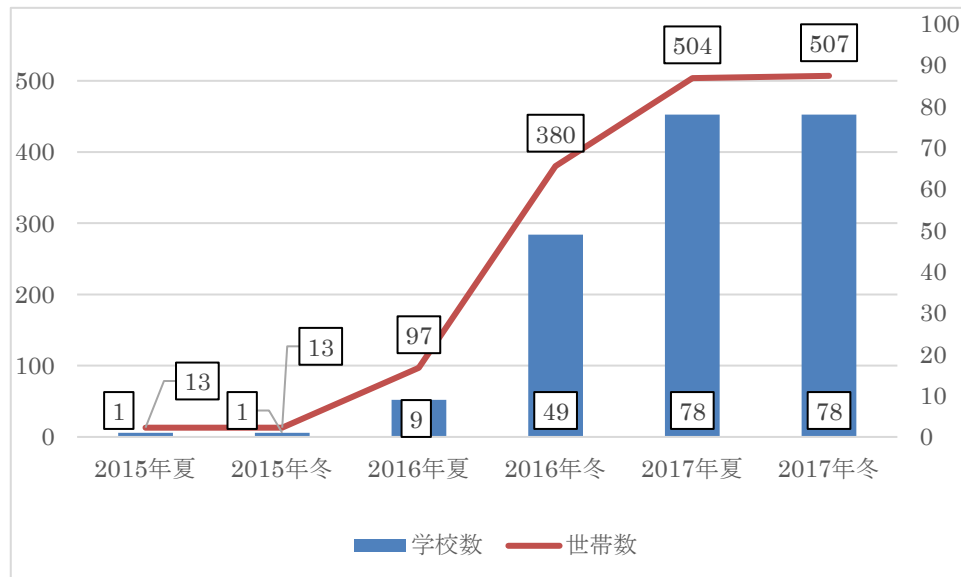


都留市・教育委員会



大月市・教育委員会

連携する学校数と利用世帯数推移



※連携する学校数増加に比例して利用世帯数も増加している。
行政窓口からの申請者は除く

Ⅲ 学習支援「えんぴつひろば」

5月から、貧困世帯の子どもたちを学習面でも支援するための活動がスタートしました。中央市と都留市に会場を設けて学習支援と昼食の提供をし、子どもたちが安心できる居場所を作りました。子ども延べ597人、ボランティア延べ478人が参加しました

1 2会場（中央市・都留市）での学習支援

（1）中央市は毎週土曜日、都留市は隔週日曜日に学習会（愛称「えんぴつひろば」）を開催しました。

- ・対象：周辺地域に住み、①行政や教育現場と連携して特定した食品料支援する困窮世帯、②生活保護世帯、③その他支援が必要と思われる世帯、の小学生から中学生の子どもを支援しました。
- ・教員 OB や大学生に学習支援の講師と市民ボランティアに食事準備をして頂きました。
- ・保護者からの子どもの相談に対応し、必要に応じて担当部署や主任児童委員につなぎました。



「田富えんぴつひろば」の様子



「都留えんぴつひろば」の様子

2 子ども食堂との連携とフードバンクキッチンの開催

（1）都留市会場において、子ども食堂の実施を検討している都留文科大学学生（都留暖らん子ども食堂）のグループと連携しました。食事の提供による食生活の改善を図るとともに、子ども達と一緒に食事の準備から参加することで、協調性を育みました。



「都留暖らん子ども食堂」調理の様子

- (2) 中央市会場では、子ども達がボランティアと一緒に食事を準備して食べる「フードバンクキッチン」を行いました。お腹いっぱい食べる機会を提供し、食育の機会としました。



食事の様子



寄付された食材を利用した料理

Ⅳ 広報、寄付活動

「フードバンクこども支援プロジェクト」の為に寄付活動に取り組みました。街頭での寄付の呼びかけも行い、子ども達へのクリスマスプレゼントも贈ることができました。また、基盤・体制づくりのために、顧客・寄付管理システムのセールスフォース・GOENを導入しました。

1 個人・企業への寄付、入会呼びかけの強化

- (1) 食品や活動資金の寄付を新規企業へ幅広く呼びかけました。子ども支援プロジェクトのチラシ、寄付のお願いの手紙を入れ新規企業へ送付しました。また、多くの方に中身を確認いただけるよう、封筒の形を工夫する等して会員・継続寄付者へ感謝を伝える手紙を送りました。



会員・寄付者への感謝の手紙と助成金で作成したノベルティシール

正会員数	75 人
賛助会員数	87 人
特別法人会員数	39 社
寄付者数	637 人

- (2) 遺贈・相続遺産寄付を広めるために、研修会に参加し、法人内で遺産相続に関するグループを作りました。ホームページでは、遺産相続 Q&A ページを作成しました。
- (3) 冬の子ども支援プロジェクトのために、寄付サイト「ジャパングビング」で寄付を募りました。サイト上では目標金額（300 万円）には届きませんでしたが、街頭呼びかけ、メディアでの広報のおかげで、最終的には、目標を達成し、子ども達へクリスマスプレゼント（1 人 1000 円分の子ども商品券）を贈ることができました。

2 チャリティーイベントの開催

南アルプス市在住の翻訳家・ミュージシャンの大友剛さんのご協力により、6月にチャリティーコンサートを行いました。200名を超える方と笑顔あふれる楽しいコンサートを行いました。寄付金・協賛金 170,500 円をいただきました。地域の方々へフードバンク活動を伝える機会ともなりました。



チャリティーイベントの様子

3 広報・認知度アップ

- (1) 多様なツール（フェイスブック・ツイッター・ホームページ）を活用し、情報発信を強めました。
- (2) 事業やイベントの開催に関して積極的にニュースリリースを行いました。メディア掲載実績はテレビ・ラジオ報道27件、新聞・広報誌掲載72件となりました。また、講演や視察の依頼は43回で、参加人数は3243人に上りました。別添資料7、8



甲府駅前では寄付の呼びかけをする様子

4 基盤・体制づくりの強化（遺贈を含む）

- （１） 昨年度に引き続き、寄付金控除・損金算入ができることを広めました。企業訪問も引き続き行いました。
- （２） 寄付者を管理するためのシステム（セールスフォース・GOEN）を導入しました。
- （３） 遺贈について知識を深め、パンフレットを作成しホームページに掲載し、ダウンロードができるようにしました。また、お香典寄付などについてもセレモニー会社へ提案相談いたしました。

V 生活困窮者自立相談支援事業（自立相談支援）

6市から生活困窮者自立支援事業を受託し、申請書などから相談が必要な世帯へ電話連絡や、食品を持って訪問する等しました。

1 生活困窮者への相談支援

- （１） 食のセーフティネット事業・フードバンクこども支援プロジェクト利用者について、各市の自立支援相談窓口の依頼、返信はがきの内容、新規利用者の現状記入欄等から、相談支援が必要な世帯への訪問相談支援を行いました。

2 自立相談支援窓口との情報交換

- （１） 利用者に食料支援を行なう過程や、訪問相談支援で得た情報を自立相談支援窓口と共有しました。

VI ボランティアの参加促進

ボランティア活動の延数は、人数：1372人、活動日数：114日間、時間数：5143時間となりました。

1 ボランティア参加の促進

フードバンクこども支援プロジェクトのスタートイベントは、県内高等学校の体育館にて開催し、夏と冬のプロジェクトには多くの生徒さんの協力がありました。若い世代がフードバンク活動を知り、ボランティア体験する絶好の機会となりました。

	KSP 会場	ボランティア数
夏	山梨県立白根高等学校	215 名
冬	山梨県立甲府東高等学校	220 名



2 新規ボランティア参加を促す取り組みの実施

- (1) ホームページやチラシ等で市民、団体にボランティア参加を呼びかけ、作業効率の向上とステークホルダーの拡大に努めました。

3 学生ボランティアグループの活性化

- (1) 大学生や中高校生からのボランティア体験申込があり、若い世代のフードバンク活動への関心が高まりました。



創価大学・社会福祉士養成課程の学生によるボランティア体験

4 ボランティアリーダーの育成

- (1) 毎週水曜日午後のボランティアタイムには、10人前後の市民が活動してくれました。ボランティアリーダーの育成には課題が残りましたが、ボランティア交流会を開催し、多くの参加がありました。



5 ボランティア作業の多角化

(1) 直接来られなくても、手作りのカードや楊枝入れ等の作品で関わるボランティア活動が広がっています。



七夕の短冊



バレンタインカード



高齢者作製の小物

Ⅶ 食品の管理

飯野倉庫の清掃、整理整頓を行ないました。また、以下の備品を充実したことで、衛生的かつ効率的な食品管理となりました。

助成金を活用して購入または寄贈された品一覧

品名	台数	寄贈元
玄米保冷库	2	パルシステム生活協同組合連合会
ラスティーパレット	6	一般財団法人山梨福祉財団
福祉サポート車	1	公益財団法人 24 時間テレビチャリティー委員会
移動式手洗いユニット	1	YBS 厚生文化事業団・タダノ株式会社

1 適正な食品管理体制の構築（災害時の対応も含む）

食品の安全な保管のため、飯野倉庫の床面清掃と補修、在庫の賞味期限再確認、期限切れや品質不良品と不用品の撤去を行ない、食品管理方法を変更しました。

(1) お米の品質維持のための保冷库等の備品の整備を行ないました。賞味期限近くの食品に対し「至急食品コーナー」をつくり、箱詰め作業時に優先して利用しました。



2台の玄米保冷库による米の定温管理



仕分け後の食品箱をラスティーパレット上で管理

食品棚をレンタルで設置



24 時間テレビより食品搬送用福祉サポート車の寄贈



動線の確保



網目カゴで量を可視化



至急食品コーナー

(2) 清掃に努め、衛生環境を改善しました。助成により、手洗い用「移動式手洗いユニットじゃぶじゃぶスタンダード」を1台購入し、活用しています。



移動式手洗いユニット設置



入口床面修繕



床全面のクリーニング

2 食品取扱量の増加

(1) 企業からの食品寄贈ルートは、製造元企業からの問い合わせ、全国フードバ

ンク推進協議会を通しての寄贈、一般企業が食品を購入しての寄贈等がありました。一方で、賞味期限間際や要冷蔵のため、受け入れに至らなかった場合もありました。



県内製造元企業



全国協議会経由



県内企業による食品を購入しての寄付

(2) 市民からの食品寄贈ルートは、事務所への直接持込・郵送による「ミニフードドライブ」35トン、夏と冬のフードドライブでは、計17トンの食品がよせられました。別添資料9



(3) 食品以外に、カイロや冷却シートの寄贈もあり、利用者に喜ばれました。



VIII 組織運営強化

顧客管理システムを導入し、情報を整理して入力が可能できるようにしました。人材育成のために外部講習を受講するとともに、講師を招いて「学習支援者のための勉強会」を実施しました。実施できなかった項目もあるため、必要性も含めて、今後について検討します。

1 人事評価制度の充実

- (1) 昨年度導入した人事評価制度を引き続き実施しました。職員の自己評価部分もあり、各自仕事を振り返ることができましたが、内容の精査は、来年の目標とします。

2 業務管理システムの確立

- (1) 昨年度から取り組んだ業務管理ですが、改良やシステムとしての確立は翌年への課題とします。
- (2) 顧客管理システムをカスタマイズして、食のセーフティネット利用者及び寄付者について過去にさかのぼりデータを入力しました。新年度から運用していきます。

3 人材育成の取り組み

- (1) 内部学習会を部門ごと必要に応じ実施しました。今後は定期的な開催を目標とします。
- (2) 外部の講習会へ参加し、担当分野のスキルアップや資格取得を行いました。
- (3) 岩手県で震災後子どもたちの学習支援に取り組む NPO 法人テディックの門馬代表を招き、先進事例を学びました。

IX 政策提言

国、県内自治体へ子どもの貧困対策、また、ふるさと納税を利用したフードバンク子ども支援プロジェクト実施を提案しました。

1 国への提案

- (1) 全国フードバンク推進協議会の活動に参画し、子どもの貧困対策などについて提言を行いました。

2 県内自治体への提案

- (1) 南アルプス市、山梨市、都留市、大月市と新たに「子どもの貧困対策連携協定」を結び、締結自治体は 6 市となりました。
- (2) ふるさと納税を子どもの貧困対策に活用する提言を「子どもの貧困対策連携協定」を結んだ県 6 市へ提案し、検討していただきました。数市で実現する予定です。
- (3) 生活困窮者自立支援事業委託のない市町村に対して、食のセーフティネッ

ト事業についての予算化を提案しました。現時点では予算計上に至っていませんが、町村長会の課題のひとつとして取り上げられました。

X 表彰・助成金

- 1 第2回賀川豊彦賞受賞 2 助成金（1）朝日子どもの貧困助成
（書籍の作成と出版）



- （2）積水ハウスマッチングプログラム
（くれよんひろば、フードバンクキッチン）



- （3）公益財団法人ベネッセこども基金
（都留えんぴつひろば）



- （4）全日本社会貢献団体機構社会貢献活動
（田富えんぴつひろば）



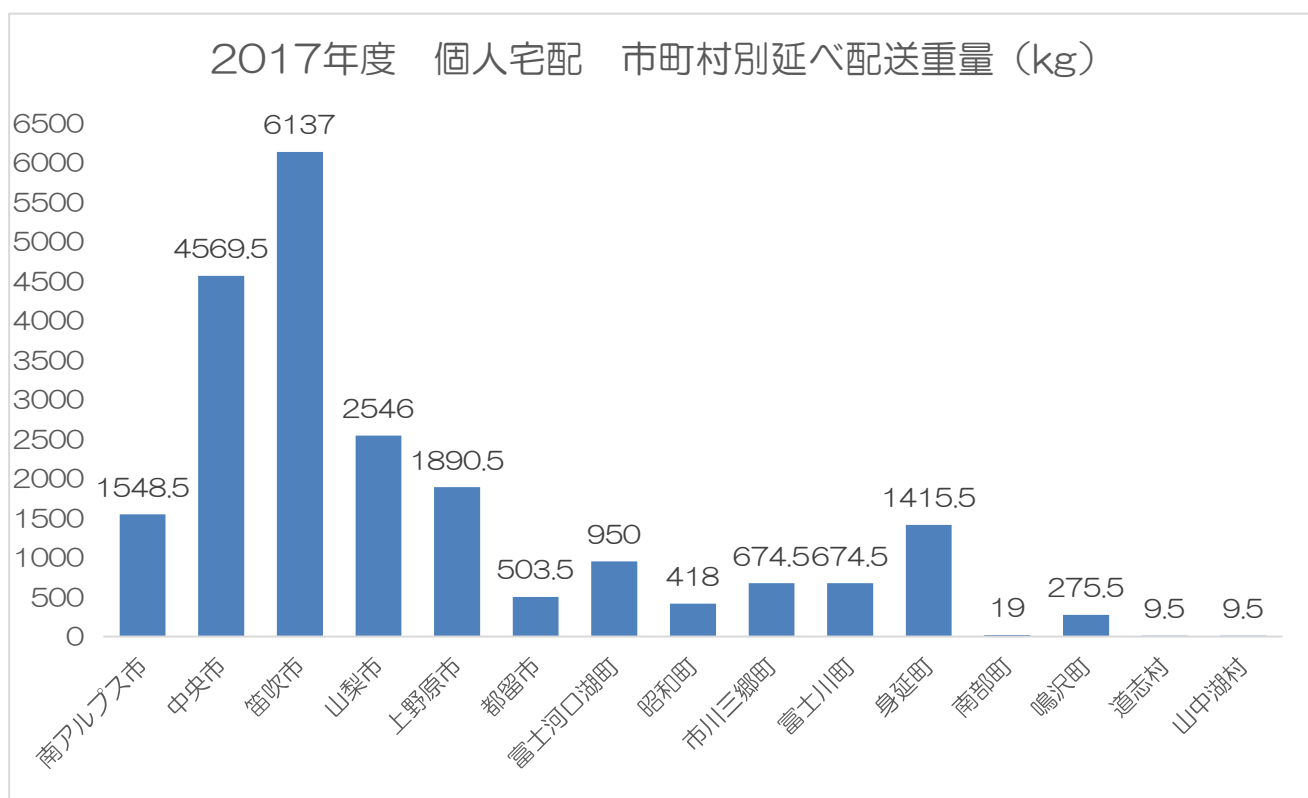
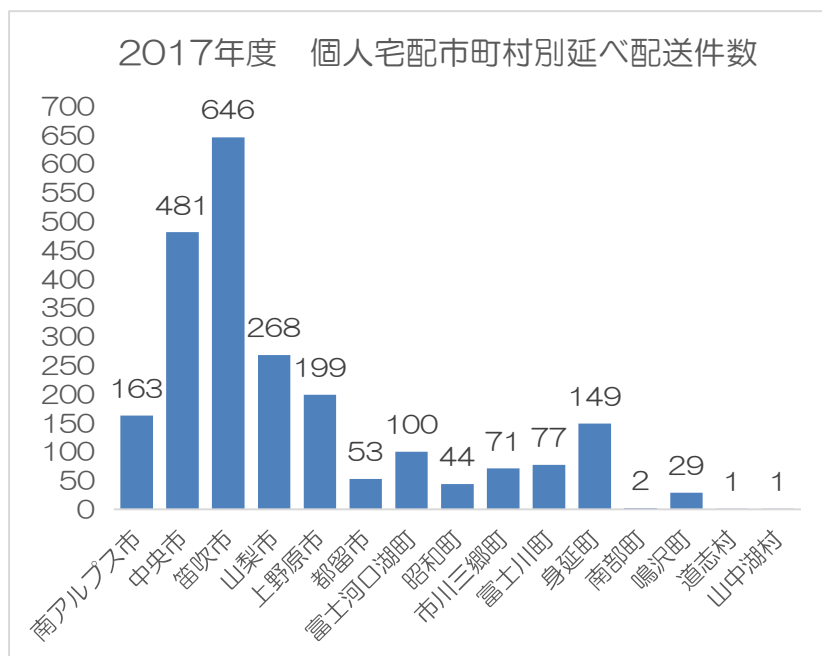
- （5）一般財団法人仲田育成事業財団
（乳幼児期の貧困の把握に関する調査）



別添資料1

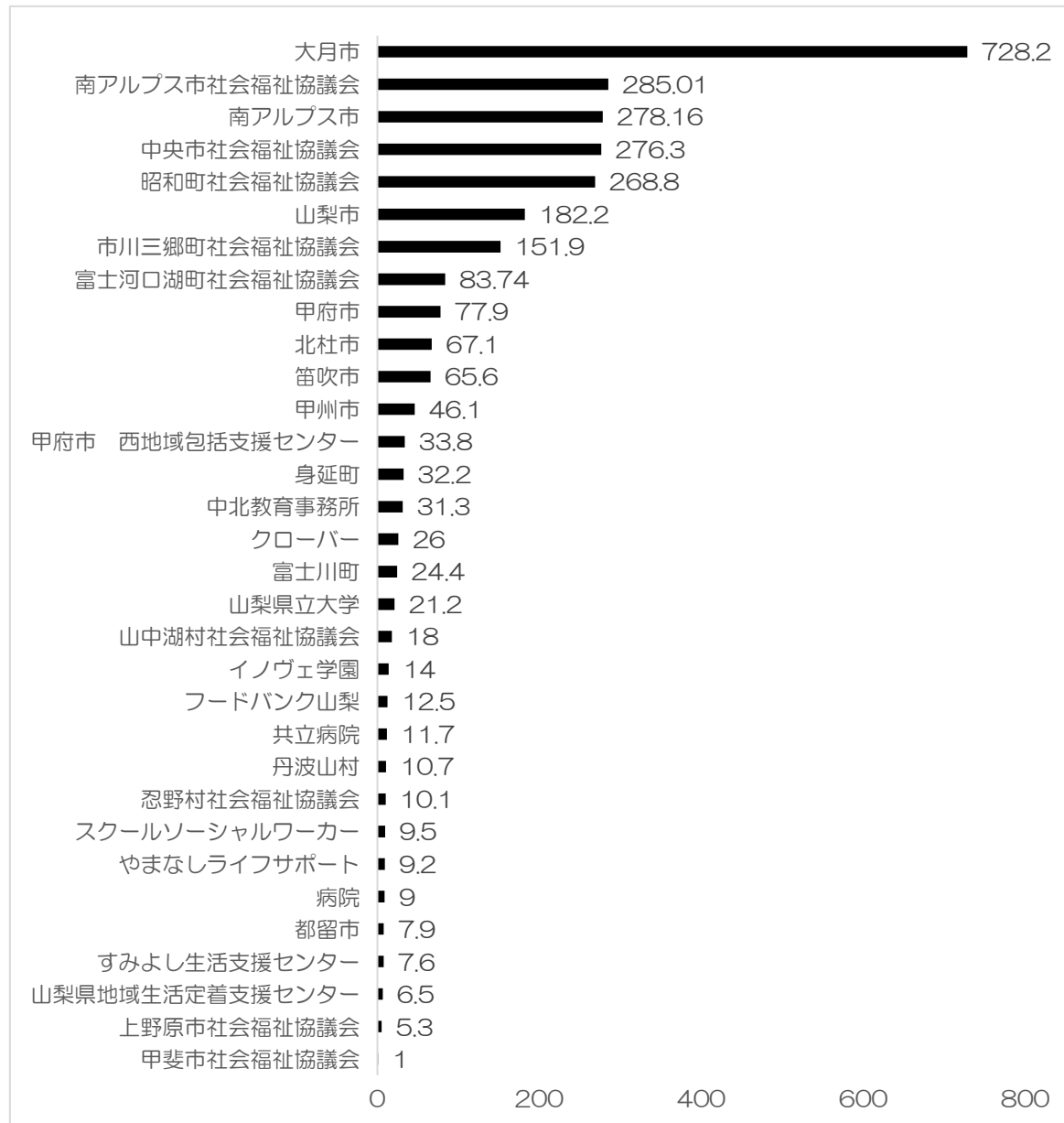
2017年度 個人宅配 延べ配送数

	件数	重量 (kg)
4月	238	2270.5
5月	184	1748
6月	186	1767
7月	184	1748
8月	170	1615
9月	163	1548.5
10月	168	1596
11月	184	1748
12月	189	1795.5
1月	215	2042.5
2月	205	1947.5
3月	197	1871.5
合計	2284	21698



別添資料2 2017年度 主要提供先別 緊急支援実績(kg)

延べ233回に渡り、2913.01kgの食品を支援

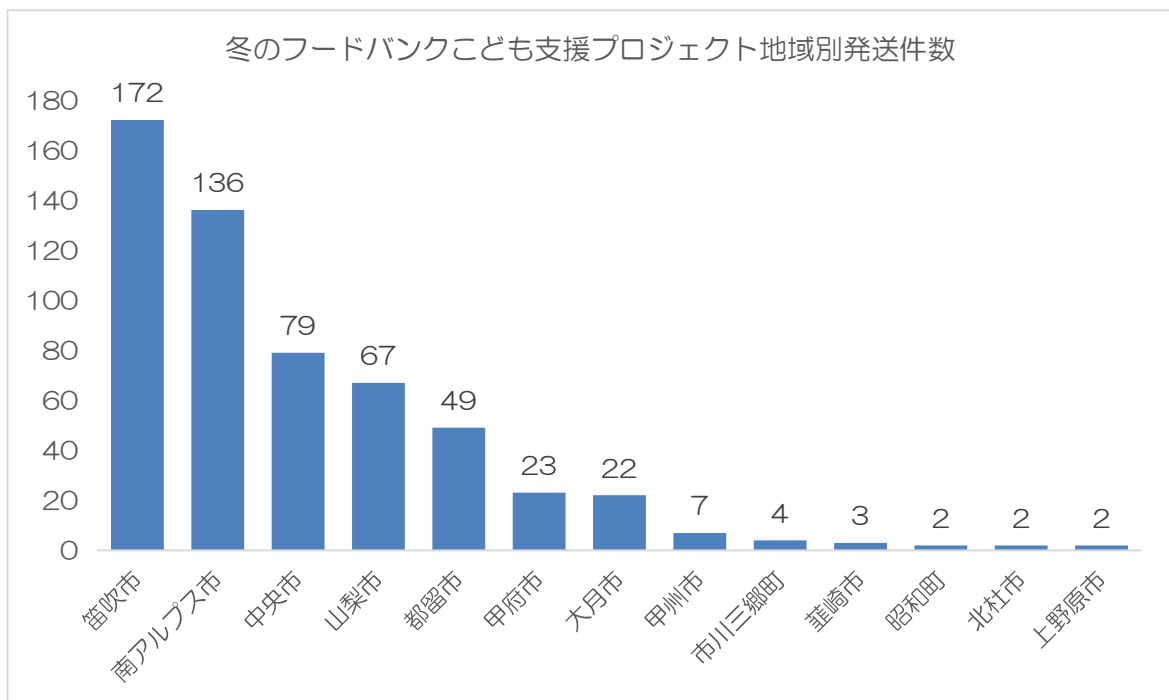
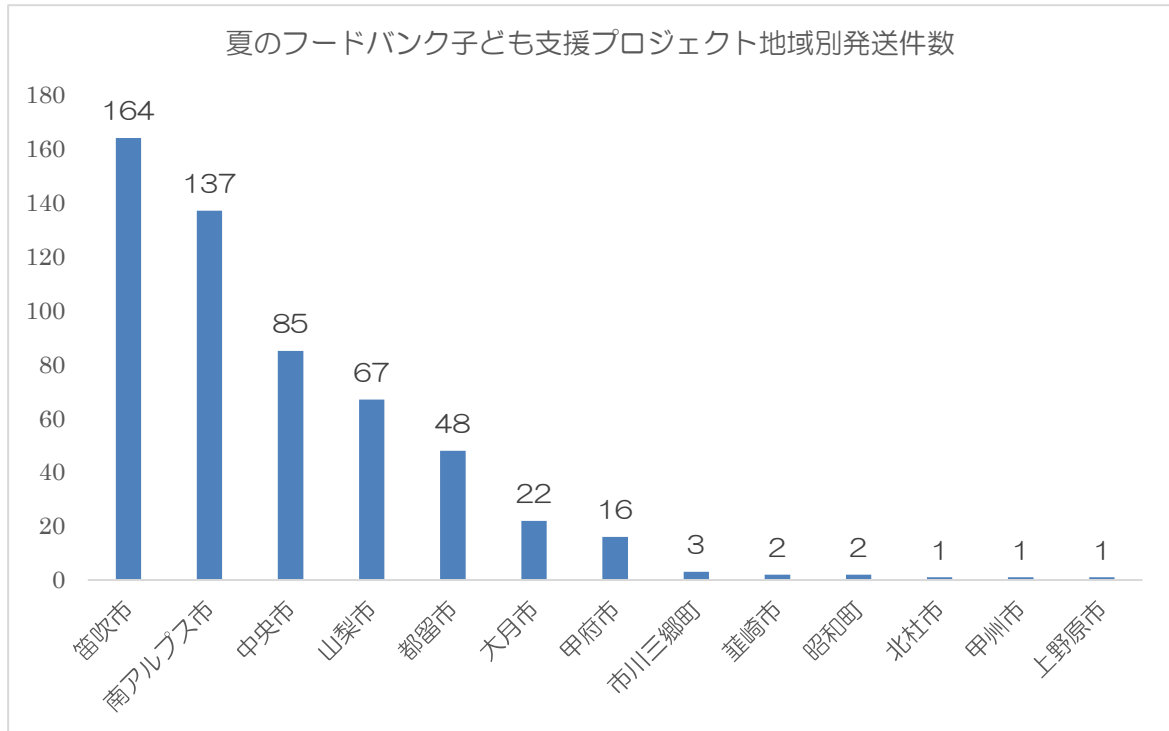


別添資料4

フードバンク山梨 30.1.8 TS-2 生活の様子やご希望など自由にお書き下さい 今回も沢山の食品ありがとうございます。ごさいました。前回いただいた商品券は子供達が本を欲しいと言うので本を購入しました。今回も子供達のために大切に使用したいと思います。 今回入っていた食材で早速カボチャグラタンを作りました。(ホワイトソースが入っていたので)とても好評でした。お菓子も子供達は大喜びしていました。沢山の人が協力いただき感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。 足りている食品: ※寄付していただいた食品のため、全てのご要望にお応えできないことがあります。 ※切手を貼らずにポストにお出し下さい。	フードバンク山梨 30.1.8 HS-1 生活の様子やご希望など自由にお書き下さい 今回で三回目プレゼントです!! 本当に毎日おまかせプレゼントでありがとうございます。思っていた以上に皆さんが箱につめていくシーンをニュースで何度も見えています。見ているだけで涙がぬけてきました。人の心の温かさは本当に幸せな気持ちになります。今度は私も他の誰かのために何かしてあげたいと思います。子供たちにも食べ物、命、人が助かるという大切さを話してあげたいと感じました。 足りている食品: ※寄付していただいた食品のため、全てのご要望にお応えできないことがあります。 ※切手を貼らずにポストにお出し下さい。
フードバンク山梨 2017.12.25 TRA-01 生活の様子やご希望など自由にお書き下さい クリスマスプレゼントありがとうございます。ごさいます!!! 子どもたちは、いつもとこそ楽しみに待っていました。 すぐに食べられた食品は、冬休みの子どもたちもなかなか消えていきました。子ども商品券は、学用品や服に使わせていただきます。気に入ったものを手にさせてあげることができそうです。幸甚々としても、とてもうれしいです。いつもありがとうございます。 手書きの手紙、ふちり通信も手紙に書いています。温かい気持ちになります。 足りている食品: ※寄付していただいた食品のため、全てのご要望にお応えできないことがあります。 ※切手を貼らずにポストにお出し下さい。	フードバンク山梨 2017.12.26 TM-02 生活の様子やご希望など自由にお書き下さい 今回もお米をはじめ、数々の食品を送っていただき、本当にありがとうございます。手作りのクリスマスカードもとても素敵ですね。子供も大喜びでした。 先日の新聞に皆様方活動が大きく載せられていましたね。大勢の方々の善行を痛感しました。 これからも、私達はひとりではなく、たくさんの人々に支えられていることを励みに精一杯頑張っていくと思います。寒さが続きますが皆様もお体には十分気を付けてお過ごし下さい。 足りている食品: 飲料、菓子 ※寄付していただいた食品のため、全てのご要望にお応えできないことがあります。 ※切手を貼らずにポストにお出し下さい。

別添資料5

2017 年度フードバンクこども支援プロジェクトの地域別配送件数内訳



別添資料6

ぶっかけ麺

材料(1人分) 乾麺 ……1束
だし ……大さじ1
しょう油 ……大さじ2
ふりかけ(お茶漬け) ……お好みの量

- ① 乾麺をゆでる
- ② だしとしょう油をまぜる
- ③ ゆでた乾麺に②のたれをかける
- ④ ふりかけ(お茶漬け)をふりかける。




生活の様子やご希望など自由にお書き下さい

この度は、たくさんの食品を送っていただき、本当にありがとうございます。子供が喜ぶものも、色々入っていて、箱を開けた瞬間、ニッコリ笑顔が見られました。ホットケーキミックスで作るカップケーキも早速、自分で作りました。とても簡単に美味しかったです。夏休み中も、いろいろなイベントを計画してくれているようですが、あんなに仕事の都合がつかず、参加出来ません。申し訳ありません。私のバカ収入だけでは、生活も厳しいですが、いつも笑顔を保ちながら頑張っていると思っております。

今回、娘の好物ばかりで、とても喜んでいました。いつも箱を開けるのが楽しみです。クリスマスプレゼントだねと、本当に喜んでいます。しほちゃんも入れていただき、冬休み中、娘がトライして作ってくれました。運動部に入っているのに、手軽に摂れる栄養食品も入っていて、とても目がかりました。お米は、毎回入れて頂き、本当に本当にありがとうございます。

レンジでフルーツケーキ

材料(1人分)
ホットケーキミックス ……200g
フルーツ缶 ……1缶

- ① ホットケーキミックスとフルーツ缶を汁ごと混ぜる
- ② 紙コップに①で混ぜたものを半分入れる。
- ③ レンジで2分温める。




温かいシリアル

コーンスープ ……1杯
※インスタントスープで大丈夫です。
シリアル ……お茶碗1杯分

- ① シリアルにコーンスープを入れる。
- ② 軽く混ぜる。
出来上がり!!



缶詰ハヤシシチュー

ハヤシルー ……大さじ3
※今回のテオー食品様寄贈のルーを使うと便利です。
コンビーフ ……1缶
さんまのかば焼き缶 ……1缶
水 ……180ml

- ① 鍋にコンビーフ、缶詰、水を入れて温める。
- ② ハヤシルーを水で溶かして鍋に入れる。
※ハヤシルーは鍋に直接入れるとダマになりやすいので水で溶かしてください。
- ③ 温まったら **出来上がり!!**

